

# SHOW HEYシネマルーム

★★★

## 9デイズ

2002 (平成14) 年8月8日鑑賞  
＜試写会＞

Data

監督：ジョエル・シュマッカー  
出演：アンソニー・ホプキンス／ク  
リス・ロック／ピーター・ス  
トーマス／ガルセル・ビュヴ  
アイス＝ナイロン／ガブリ  
エル・マクト／ケリー・ワシ  
ントン

## 👁️👁️ みどころ

『羊たちの沈黙』や『ハンニバル』でのレクター博士の役があまりにも有名となり、トレードマークになってしまったあのアンソニー・ホプキンスがCIAの諜報員としてポータブル核爆弾買い取り任務に挑む。プラハとニューヨークを股にかけてのロシア人マフィアとCIAとの知能戦。核爆弾爆発へのカウントダウンは果たして止められるか……。派手なカーアクションもあるが、ちょっとストーリーに無理あり。『スパイ・ゲーム』などと比べると作品の出来は今ひとつ……。詳細は坂和評論で。

— \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \*

### ＜ソビエト連邦の崩壊と拡散する核兵器＞

東西冷戦の終了とソビエト連邦の崩壊。ここから世界の秩序は大きく変わった。まずはアメリカの一人勝ち。そして近時は中国の台頭。

ソビエト連邦崩壊後に生まれたロシアという国は、大きくその国際的な力を低下させながら、西欧化に向けて、今懸命の努力を進めている。しかし、暗躍するロシア人マフィア  
の存在、旧ソ連時代の核兵器や潜水艦の売買などいかに物騒な話が現実にもおこり、新聞紙上を賑わしている。

1997年10月1日。CNNはロシア前安全保障理事会書記長のアレクサンダー・レベジ将軍の証言を全世界に報じた。

それは、1990年代にロシアの保持する核兵器を調査したところ、84個ものポータブル核爆弾 (Portable Nuclear Bomb=P. N. B.) が武器庫から消失していたというニュースだ。ソ連崩壊の混乱に乗じて消えた核爆弾のほとんどは、ロ

シア・マフィアなどが牛耳るブラック・マーケットに流出しているというのだ。たしかに、本当であっても何ら不思議ではないコワイコワイ現実だ。

### <変身のアンソニー・ホプキンス。相棒クリス・ロックとのコンビの出来は？>

アンソニー・ホプキンスといえば、『羊たちの沈黙』や『ハンニバル』で演じた、あのレクター博士があまりにも有名。底の知れないほどの犯罪者でありながら、知的でクール、しかも女性捜査官クラリスに「愛情」を注ぐ不思議なキャラクターを不滅のものにしてしまった。

あのアンソニー・ホプキンスが、この映画ではCIAの敏腕諜報員ゲイロード・オークスを演じ、撃ち合いのみならず、派手なカーアクションまでこなしている。

他方、オークスのCIAの相棒で、死んでしまうケヴィン・ポープ、そして双子の兄弟のジェイク・ヘイズの二役を演ずるのは、黒人俳優クリス・ロック。もっとも、ケヴィン役はほんの少しだけ。そのほとんどは、死んだケヴィンになりかわって、9日後のポータブル核爆弾の取引に立ち会うため、9日間の特訓を受ける、おしゃべりで陽気、そして恋人ジュリー（ケリー・ワシントン）へ深い愛情を注ぐ貧乏黒人青年を演じている。

007のスパイ、ジェームズ・ボンドはいつも一人で行動しているが、その昔の0011ナポレオンソロでは相棒イリア・クリアキンとの同僚コンビ、最近の名作「スパイ・ゲーム」ではロバート・レッドフォードとブラッド・ピットとの師弟コンビなど、コンビを組んだスパイもの、諜報ものは多い。

シリーズ化した『MIB（メン・イン・ブラック）』も、トミー・リー・ジョーンズとウィル・スミスとのコンビだ。

日本の漫才でも同じだが、コンビが成功するかどうかは、極めて微妙なものがある。

『MIB』では、「とことんバカバカしく」、『スパイ・ゲーム』では、「とことん知的に」。だが、この『9デイズ』では、「一方はとことん知的に、他方はとことん素っ頓狂に」というスタイル。それはそれで楽しい面もあるが、アタッシュケース1個分でニューヨークのマンハッタンを壊滅させてしまうほどの深刻なポータブル核爆弾の取引をめぐる、プロ中のプロの話の中に、素っ頓狂な「ど素人」が9日間の訓練だけで参加し、結果的に成功を収めるといふ筋書きには多少無理がある。

オークスが言うように、「ジェイクを入れての取引の成功はおぼつかない」というのが正当な予想だ。意外に学習能力があり、成長した感じのジェイクでも、これに簡単に騙されるロシア系マフィアに、「お前らバカか」と言うと、言い過ぎか・・・？

### <派手な撃ち合いとカーアクションに興味が！>

ケヴィンが生きていることを示すためには、訓練途上のジェイクを危険にさらしてでも、

ケヴィンとして行動させなければならない。そこでジェイクはケヴィンに扮して表舞台に登場する。

まず最初は立派なホテルの豪華な部屋の中。そこにマフィアからの危険が迫る。さらに次の段階では、ケヴィンの恋人（だった）ニコール（ガルセル・ビュヴァイス＝ナイロン）の登場。こんないい女が留守中にホテルの部屋の中でシャワーを浴びていた。そしてセクシーな下着姿を見せながら、「私がわがままだった。ごめんなさい。」とヨリを戻すことを迫ってきたのだから、素人のにわか仕立ての諜報員がボロを出すのは当たり前。ジェイクには次々と危険が迫り、撃ち合いとなるが、結果的にジェイクはうまく難を逃れる。

しかし納得できないのは、オックスがジェイクと一緒に、ポータブル核爆弾をもって一台の車に乗って逃げるシーン。マフィアの車から追跡され、機関銃を乱射される。これに対してオックスがもつのは一丁の拳銃だけ。

こんな圧倒的に不利な状況設定の中、カーチェイスにも勝つわ、鉄砲の撃ち合いにも勝つわ、ではあまりにも不自然な感がある。車をバックさせる場面などは、マフィアが、バックしてくる車に突き飛ばされるまで機関銃を撃つのを待っている感じ……。さらに最後の撃ち合いもかなり不自然。従って私としてはこの際はっきりと、この映画における撃ち合いの場面とカーアクション場面には「異議あり」と言っておこう。

## ＜パソコンによるオンライン取引の？と、網膜照合システムの納得＞

C I Aはポータブル核爆弾を、ロシア・マフィアから1900万ドルで買い取ることに合意した。そしてこの金は、パソコン上の処理だけで銀行からオンラインでマフィアの口座に振り込まれるというシステム。しかし、C I Aは巧妙なパソコン上のトリックにより、マフィアの持つパソコンには形だけその口座に振り込まれたように表示される細工を施したとのこと。「待てよ、この振込み方法はどこかの映画で見た感じ……。そう、そう、思い出した。最近数多くの作品で渋く味のある演技を見せるあのジョン・トラボルタが、元エリート・スパイで今は天才的な犯罪者ガブリエルとなった『ソードフィッシュ』（2001年11月25日鑑賞）だ。

この映画は予想以上に無茶苦茶面白かった。そしてこの映画では、世界一のハッカーと組んだトラボルタがパソコン上のコンピューター回線の操作によって、95億ドルという莫大な政府のヤミ資金を奪うというストーリーがスリリングに展開されていた。

ロシア・マフィアは、こんなトリックで簡単にダマされる程度なのか……。？ちょっと容易すぎるオンライン取引だ。

他方、ポータブル核爆弾の起爆装置をロックするのに、ジェイクの目の網膜パターンをインプットし、それによってしか解除できないというシステムはよく理解でき、かつ納得

できる。

もっとも現実問題としては、ジェイクが何らかの事故で突然死んでしまったらどうなるのか・・・などと、無用な心配（ホントは必要な心配）もしてしまうが・・・。

### <カウントダウンの停止、危機一髪>

裏切りに次ぐ裏切りの中で、ポータブル核爆弾はテロリスト集団であるドラゴン一味の手に取り戻されてしまった。しかし、例の網膜照合システムが効いているため、ジェイクをパソコンの前に連れてこなければ、起爆装置は作動しない。そこでドラゴン一味は、ジェイクの恋人ジュリーを拉致し、これをエサにジェイクを呼び寄せる。CIAは総力を挙げてジェイクを護衛し、ドラゴン一味を一網打尽にしようとするが、ちょっとしたスリカエにCIAは騙されて、まんまとジェイクの身柄は敵の手に。CIAもあんまり頭の出来は良くないナ・・・。

ナイフを目に突きつけられたジェイクは目を開かざるを得ない。網膜照合システムにインプットされていたジェイクの網膜と一致。そのスキャンにより、起爆装置のロックは解除された。そして、このポータブル核爆弾はニューヨークの某所にセットされ、アメリカの滅亡が現実問題となった。

オークスをはじめとするCIAは、総力を挙げてこれを探索。ジェイクの救出に成功。そして最後に、ジェイクはその得意の記憶力を生かして、起爆へのカウントダウンをストップさせるためのコードナンバーを思い出す。1つでも間違ったらすべてはおしまい。しかし危機一髪、カウントアップ直前にタイムスイッチは無事ストップした。ところがこれも、昔、007シリーズで、ジェームズ・ボンドがやっていたような記憶がある。その時はたしか、爆発7秒前。つまり、カウンターが示す数字は007だった・・・。従ってこれも2番せんじ・・・。

### <美しいプラハの町>

最初のロシア・マフィアとの取引は、チェコ共和国の首都プラハで行われた。冒頭のタイトルや、キャスト紹介の字幕のバックには美しいプラハの町が次々と映し出される。数多くの戦乱に巻き込まれたあのチェコスロバキアという国に、中世の面影が残る美しい建物が数多く残されていることにびっくり。なぜ、こんな多くの建物や美しい町並みが残っているのだろうか？最後の取引場所として設定されたのも、プラハの郊外にある、廃墟となった修道院。この修道院が廃墟となったのは、戦乱の結果だとすぐに理解できる。他方、ドラゴン一味がポータブル核爆弾をセットしたのはニューヨークのマンハッタン。

この映画は、プラハとニューヨークを対比させながら美しい町並みを描いており、これは見事だ。

## <おわりにープロデューサーへのお願い>

この映画の監督はジョエル・シュマッカーだが、製作者（プロデューサー）はジェリー・ブラッカイマー。98年の『アルマゲドン』や01年の『パール・ハーバー』、『ブラックホーク・ダウン』などをプロデュースした人物だ。そう言われてみると、CG（コンピューター・グラフィック）を多用した手法や派手なアクションなど、いかにも共通する要素があることがわかる。しかし、『パール・ハーバー』や『アルマゲドン』と比べると、本作品は明らかにB級・・・。

83年に公開されたあの名作『フラッシュダンス』は、このジェリー・ブラッカイマーがドン・シンプソンと組んでつくった作品とのこと。それならば、私の注文としては、あまりド派手な作品ばかりに走らず、もっと人間味のある素直なストーリーの映画を作ってもらいたいものだと思うがどうだろう・・・。

2002（平成14）年8月10日記